

習志野市接続期カリキュラム

～幼児期から児童期への滑らかな接続について～

習志野市・習志野市教育委員会

1 接続期のカリキュラム作成の主旨

幼児期の教育

生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであります。子どもが身近な環境に主体的に関わる中で、環境との関わり方や意味に気付き、自分の生活や遊びに取り込もうと試行錯誤したり、考えたりしながら活動が豊かに展開していくように、保育者が環境を整える、このことが幼児期の教育の基本です。この基本を踏まえ、【幼児期に育みたい三つの資質・能力】が一体的に育まれるように、【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】をてがかりに「アプローチカリキュラム」を作成・実践することで幼児期の終わりから、小学校入学当初の教育を円滑につなぐ柱としていきます。

児童期の教育

人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達段階や特性及び学校や地域の実態を考慮した教育課程を編成し教育を行います。また、教育課程の編成にあたっては幼児教育と小学校教育の接続を図るため、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を配慮することが大切です。そこで、特に小学校入学当初においては、幼児期に自発的な活動としての遊びを通して育まれてきた【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】が生かされるような「スタートカリキュラム」を作成・実践することで、幼児期の教育を踏まえた小学校入学当初の教育の柱としていきます。

接続期のカリキュラム

幼児期の教育から児童期の教育への円滑な接続を図るために作られるカリキュラムのことです。児童期の教育に向かう幼児期の教育の全体的な計画【アプローチカリキュラム】と、幼児期の教育からの円滑な接続を意識した小学校入学当初の教育課程【スタートカリキュラム】を合わせ、幼児期と児童期の学びをつなぎます。

2 幼児教育と小学校教育における育みたい資質・能力のつながり

◆ これからの時代に求められる子ども ◆

自分のよさや可能性を認識
あらゆる他者を価値のある存在として尊重
多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越える
豊かな人生を切り拓く

小学校教育

教科等を通じた指導

知識・技能

何を理解しているか
何ができるか

思考力・判断力・表現力等

理解していること・
できることをどう使うか

学びに向かう力・人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

幼児教育

遊びを通しての総合的な指導

知識・技能の基礎

豊かな体験を通じて、感じたり、
気付いたり、わかったり、できる
ようになること

思考力・判断力・表現力等の基礎

気付いたこと、できるようになっ
たことを使いながら、考えたり、
試したり、工夫したり、表現した
りすること

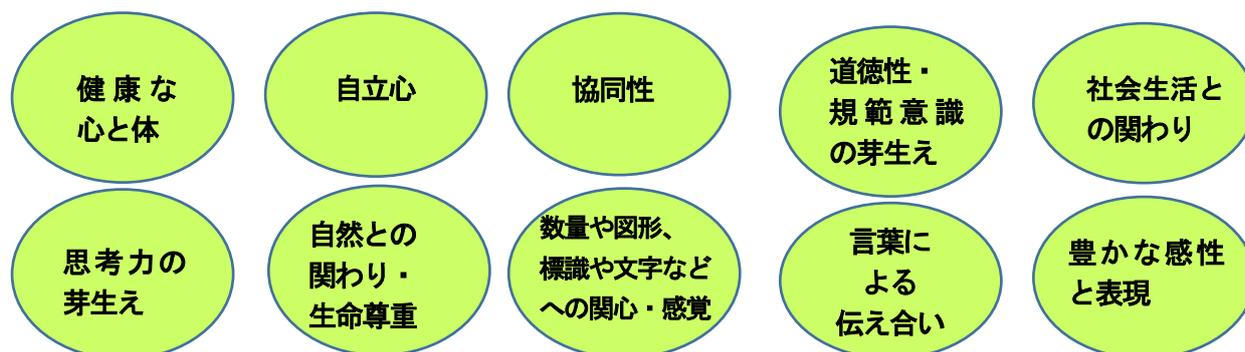
学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、
よりよい生活を営もうとすること

3 幼児期の教育と児童期の教育の比較

	幼児期の教育	児童期の教育
教育課程の基準	学校教育法・教育基本法 その他の法令 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領	学校教育法・教育基本法 その他の法令 小学校学習指導要領
	健康 人間関係 環境 言葉 表現	国語・社会・算数・理科・生活・音楽・ 図画工作・家庭・体育・道徳・ 外国語活動・総合的な学習の時間・ 特別活動
教育課程の 構成原理	経験カリキュラム (一人一人の生活や経験を重視)	教科カリキュラム (学問の体系を重視)
	方向目標 (その後の教育の方向付けを重視)	到達目標 (具体的な目標への到達を重視)
教育の方法等	遊びを通した総合的な指導	教科等の目標・内容に沿って選択された教材による指導
学びの形態	学びの芽生え 楽しいこと好きなことに夢中になっ て取り組み、体全体を通して感じ、 気付く中で、様々なことを学んでいく (小学校以降の教育の土台となる)	自覚的な学び 学ぶことについての意識があり、与 えられた課題を自分の課題として受 け止め、計画的に学習をすすめて いく

4 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



健康な心と体	幼児教育施設の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の思いに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人とふれあう中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼児教育施設内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かすような出来事に触れ感性を働かせる中で様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい意欲をもつようになる。

5 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・学習指導要領の改訂に伴う幼児期から児童期への接続に求められる方向性

小学校教育は0からのスタートではありません

小学校学習指導要領における 幼小接続の在り方

- ★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫する
- ★児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにする
- ★幼児期に遊びを通して育まれてきたことを各教科等での学習につなげる

幼稚園教育要領等における 幼小接続の在り方

- ★みんなと一緒に教職員の話を聞いたり、行動したり、きまりを守ったりすることができるよう指導を重ねる
- ★協同して遊ぶ姿から、協力して目標を目指す姿へとつなげる
- ★幼児期に教育を通じて身に付けたことを生かしながら小学校教育へつなぐ

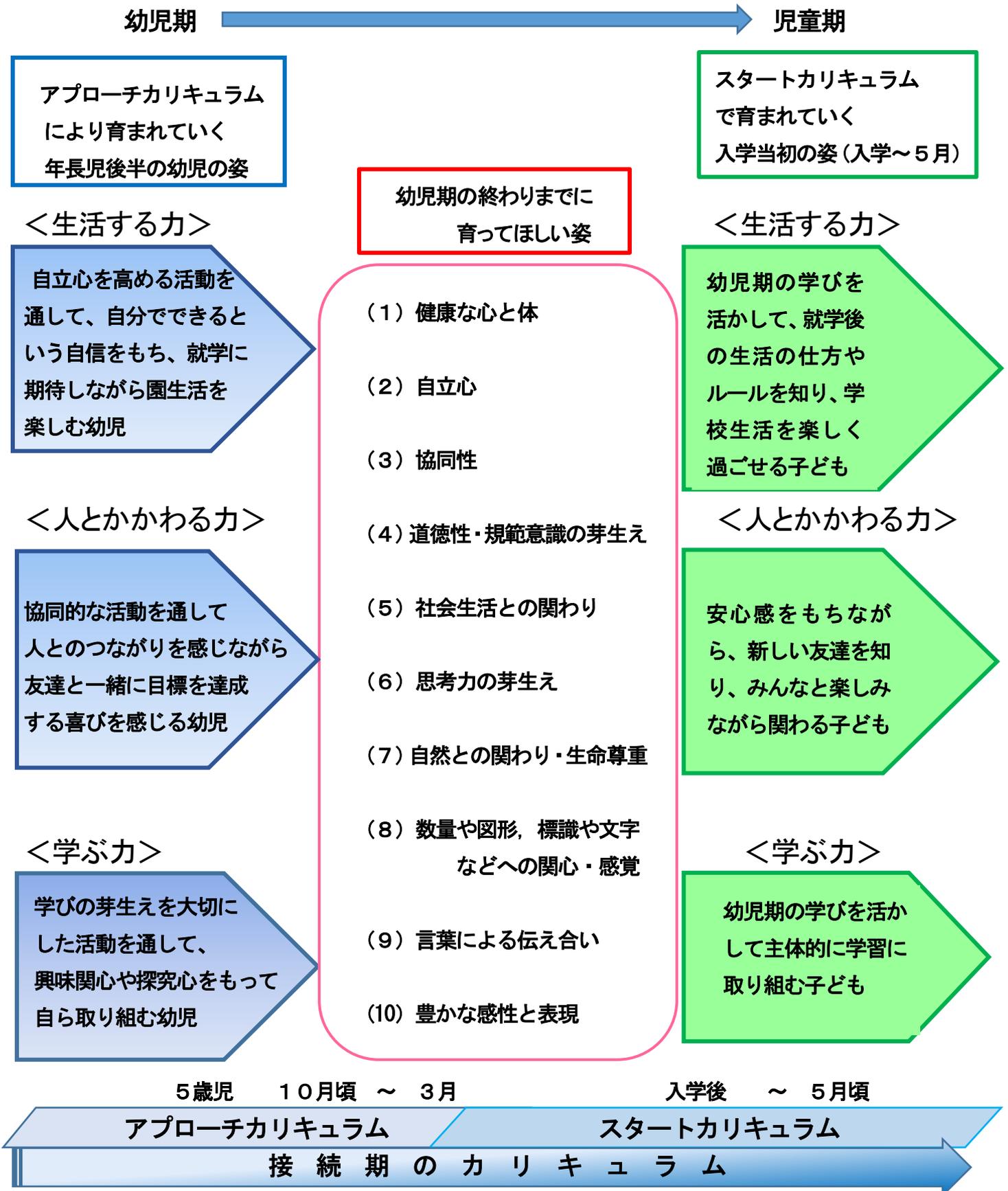
これも大切！

幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を基盤として育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施する。

これも大切！

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見通し、5歳児だけではなく、3歳児、4歳児の時期から、発達していく方向を意識して指導を積み重ねる。

6 幼児期から児童期へのカリキュラムのつながり



7 習志野市接続期カリキュラム

学びの芽生え

～遊びを通した総合的な学び～

小学校教育への円滑な接続

自覚的な学び

～教科等を通した学び～

期	5歳児 10月～12月	5歳児 1月～3月	小学校 入学～5月																																				
目指す姿	○自分のことは自分でできる。	○やってみよう、やればできるという自信をもって安心して生活する。	○新しい環境に慣れ、自分の力で学校生活を送れるようになる。																																				
生活する力	・園内や公共の場での過ごし方がわかり安全に気を付けて遊べるようにする。 ・困った時や分からないことがあった時は、自分で周りの人に聞けるように仲立ちをしたり、具体的な伝え方を知らせたり、自分で伝えたりできるようにする。 ・自分で場や物を整えながら遊べるように気付かせたり、知らせたりする。 ・生活に見通しをもち、次に行くことを自分で考えられるように環境を整える。(生活の流れの表示等)	・危険なことや状況を自分で判断して安全に行動できるようにする。 ・遊びや生活の中で困った時は、今までの経験から、自分なりに考えて行動できるよう言葉をかけたり、考えられる環境を保障したりしていく。 ・自分から準備・片付けをし、決められた時間内に行えるように意識付け、就学に向けて生活習慣の再確認ができるようにする。 ・生活の区切りとなる活動や時間を意識しながら、行動できるようにする。	例<4月第2週のカリキュラム><スタートカリキュラムの工夫と配慮> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">今週のねらい【学校の生活がわかる 先生や友達と仲良くなる】</th> </tr> <tr> <th></th> <th>4/12(月)</th> <th>4/13(火)</th> <th>4/14(水)</th> <th>4/15(木)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>朝の会</td> <td>「朝の準備をしよう」 ・手遊び・ゲーム</td> <td>「なかよし時間がはじまるよ」 ・手遊び ・リズム ・体操</td> <td>「6年生との交流」 ・登校後の手助けをしてくれる6年生との自己紹介タイム</td> <td>「なかよし時間がはじまるよ」 ・手遊び ・リズム ・体操</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1時間目</td> <td>書写 「なまえをかこう」</td> <td>生活科 「ともだちとなかよし」 ・友達の名前をおぼえよう</td> <td>国語 「どうぞよろしく」 ・学校探検の自己紹介カードづくり</td> <td>生活 「2年生と学校探検」 ・2年生と対面式 ・見たこと、気づいたことを人に話す</td> </tr> <tr> <td>国語 「なにを言おうかな」 ・絵を見て話をする</td> <td>国語 「なにを言おうかな」 ・絵を見て話をする</td> <td></td> <td>音楽「一緒に校歌をうたおう」</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2時間目</td> <td>生活科 「なかよく遊べるかな」</td> <td>★生活科 「生き物となかよし」</td> <td>国語 「線をなぞろう」</td> <td>体育 「遊具を使って遊ぼう」 ・かけっこ ・リレー遊び</td> </tr> <tr> <td>音楽 「校歌を覚えよう」</td> <td>★図工 「生き物を描いてみよう」</td> <td>算数 「かずとすうじ」 ・5までのかず</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				今週のねらい【学校の生活がわかる 先生や友達と仲良くなる】						4/12(月)	4/13(火)	4/14(水)	4/15(木)	朝の会	「朝の準備をしよう」 ・手遊び・ゲーム	「なかよし時間がはじまるよ」 ・手遊び ・リズム ・体操	「6年生との交流」 ・登校後の手助けをしてくれる6年生との自己紹介タイム	「なかよし時間がはじまるよ」 ・手遊び ・リズム ・体操	1時間目	書写 「なまえをかこう」	生活科 「ともだちとなかよし」 ・友達の名前をおぼえよう	国語 「どうぞよろしく」 ・学校探検の自己紹介カードづくり	生活 「2年生と学校探検」 ・2年生と対面式 ・見たこと、気づいたことを人に話す	国語 「なにを言おうかな」 ・絵を見て話をする	国語 「なにを言おうかな」 ・絵を見て話をする		音楽「一緒に校歌をうたおう」	2時間目	生活科 「なかよく遊べるかな」	★生活科 「生き物となかよし」	国語 「線をなぞろう」	体育 「遊具を使って遊ぼう」 ・かけっこ ・リレー遊び	音楽 「校歌を覚えよう」	★図工 「生き物を描いてみよう」	算数 「かずとすうじ」 ・5までのかず	
	今週のねらい【学校の生活がわかる 先生や友達と仲良くなる】																																						
	4/12(月)	4/13(火)	4/14(水)	4/15(木)																																			
朝の会	「朝の準備をしよう」 ・手遊び・ゲーム	「なかよし時間がはじまるよ」 ・手遊び ・リズム ・体操	「6年生との交流」 ・登校後の手助けをしてくれる6年生との自己紹介タイム	「なかよし時間がはじまるよ」 ・手遊び ・リズム ・体操																																			
1時間目	書写 「なまえをかこう」	生活科 「ともだちとなかよし」 ・友達の名前をおぼえよう	国語 「どうぞよろしく」 ・学校探検の自己紹介カードづくり	生活 「2年生と学校探検」 ・2年生と対面式 ・見たこと、気づいたことを人に話す																																			
	国語 「なにを言おうかな」 ・絵を見て話をする	国語 「なにを言おうかな」 ・絵を見て話をする		音楽「一緒に校歌をうたおう」																																			
2時間目	生活科 「なかよく遊べるかな」	★生活科 「生き物となかよし」	国語 「線をなぞろう」	体育 「遊具を使って遊ぼう」 ・かけっこ ・リレー遊び																																			
	音楽 「校歌を覚えよう」	★図工 「生き物を描いてみよう」	算数 「かずとすうじ」 ・5までのかず																																				
関わる力	・小グループの友達とイメージを共有しながら遊ぶ中で、遊びを変化させたり、工夫したりできるよう十分な時間と場の保障をする。(ごっこ遊び等) ・互いに思いを伝え合い、折り合いをつけながら遊ぶ中で、子ども同士が友達のよいところを認め合い、頑張っている姿に気付けるようにしていく。(運動会、発表会等)	・ルールのある遊びについては、クラス全体で取り上げて、共通理解を図り、自分たちで遊びを進める楽しさを味わえるようにする。(鬼遊び、ドッジボール等) ・友達の意見を受け入れたり尊重したりしながら遊びを進められるように、それぞれの思いや考えを受け止め、調整したり、子どもがよりよい方法や考えを生み出せるように方向付けをしたりしていく。	○幼児期に学んだことを問いかけ引き出ししながら、就学前施設と学校との同じ部分や相違点に気づかせたり確認したりしながら、新たな環境に慣れていくようにする。(生活する力) (例えば「〇〇園では、どんなトイレだった?」「〇〇園と小学校とどこが違う?」等) ○ 幼児期の遊びや活動を取り入れ、担任や友達と楽しみながら関わる活動を設定する。(関わる力) ・簡単な手遊びや友達づくりにつながるゲームを取り入れる。 ○ 子どもの発達を踏まえ時間割や学習活動を工夫し、編成する。(生活する力 学ぶ力) ・児童が集中できるように45分間を分割して短時間設定授業を行う。 ・次の授業の準備、片付け、着替え等、個人差を考慮した時間の確保をする。(生活する力) ・児童の集中力や理解面から短く、具体的に話すよう心がける。(関わる力) (1指示1動作で活動できるよう担任は意識する) ○ 生活科を中心に成長の姿に適合した単元(合科・関連など)を構成し配列する。(関わる力 学ぶ力) ・★の生活科「生き物となかよし」で友達と一緒に生き物を見つけたり触れ合ったりした後、図工「生き物を描いてみよう」では身近な生き物を描き表現する等、教科と教科を合科・関連させ設定をしていく。 ○ 安心して学べる学習環境を整える。(学ぶ力) ・ユニバーサルデザインに配慮した環境を心がける。(情報量を精選し、集中できる掲示の工夫)																																				
学ぶ力	・場に応じた言葉の使い方や表現の仕方がわかるよう気付かせたり知らせたりしていく。 ・遊びの中で文字や数字、記号等に興味をもち読んだり、使ったりできるようにする。(ごっこ遊び等) ・身近な環境に積極的に関わり、遊びや生活に取り入れられるようにする。(秋の自然物、制作等)	・相手の気持ちや状況に応じて、自分の思いや考えを表現できるよう環境を整えたり、自信をもって表現できるよう励ましたりしていく。 ・今までの経験から、数や文字を使うとより遊びが楽しくなることを知り、進んで生活や遊びに取り入れられるような環境を工夫する。(手紙ごっこ、カルタ遊び、すごろく遊び等) ・自然現象に興味をもち、触れたり試したりできるような環境を整える。(冬の自然物、冬の現象等)																																					
生活する力 関わる力 学ぶ力を育む遊び	遊びの事例	事例① 友達と一緒に踊りたい 10月 体を動かして遊ぶ 事例② タイムセールです! 11月 友達とお店ごっこをする 事例③ すごろく作って遊ぼう 12月・1月 数量や図形、文字の関心・感覚を用いて遊ぶ 事例④ 氷を作りたい 2月 自然・現象に興味をもち、気付きを伝え合う 事例⑤ もっと、長いのがいいよ 2月 今までの経験から考えて行動する																																					
	交流活動	運動会の種目と一緒にしよう 小学生に発表会を見てもらいたい。 一緒にいろいろなお正月遊びをしよう。 一日入学																																					

※保護者連携
・幼児の実態に合わせ、翌日の持ち物等、幼児が保護者に伝える場をつくる。保護者には支度等、幼児が自分で行えるよう一緒に取り組む。
・特別支援が必要な幼児については、保護者の思いを受け止めながら引継ぎを丁寧に行い、安心して就学につなげられるよう配慮をする。(個別支援計画、ライフサポートファイルを活用)
・親子で通学路を確認する、実際に何度か歩いてみる、近所の友達がいるかを確認する等、入学後に安心して登下校ができるように家庭と連携をとりながら行う。
・就学後も保護者といつでも相談できる体制を整えていく。また、保護者と児童の不安を取り除けるように、共感的、肯定的態度で寄り添う。

事例①

【友達と一緒に踊りたい】体を動かして遊ぶ

10月

8人チームで運動会のダンスに取り組む。8人で動きがそろうことを目当てに、動き始める。「よし！やろう！」「せーの！」「1、2、3、…8。1、2、…8。1、2、3、4、5！」と8人でリズムを声に出しながら動き始める。しかし、初めは回転する動きにばらつきがある。

「もう一回、やろう！」というA児の声に、他の子どもたちも何度も繰り返し、真剣な表情で取り組む。教師は見守りながら、時々「どうかな？」と声をかける。子どもたちが「まだできないよ」と答えるので、教師が、見本になるように難しいような動き方のコツを伝えたり見せたりする。また、「順番に見せ合っているチームもあるよ」と他チームの姿を知らせる。

A児「じゃあ、男の子と女の子に分かれてやろうよ。最初は女の子ね」「わかった」と女児は応え踊って見せる。

A児「オー！できてるよ。じゃ、次は男の子やろう」と言って、男児が踊り始めるが、なかなかそろわない。そこで、A児が「1、2で足を開いて、3、4、でバツにして、5でクルッと回るの！やるから見て！」と具体的な動きを言葉で伝えて実際にやって見せている。

男児「そうか！わかった！やろう！」と皆で数を数えながら繰り返し、踊ることで、段々とそろった動きができるようになってきた。B児がそろわないことに気づきA児が「B君、5でクルッと回るんだよ、がんばろう！せーの！」「もう一回、せーの！」と励ます。チームの友達も励まし続け、B児ができ、笑顔になる。

A児は「(拍手をしながら)すごい！そろったよ！」と笑顔で言う。チームの友達も笑顔で喜ぶ。

環境の構成

- ・8人のチーム編成している。
- ・動ける場所と時間の確保

保育者の援助

- ・具体的な目当てをもたせて、子どもの姿を見守る。
- ・他のチームの取り組みの情報提供
- ・必要に応じて動きのコツを言葉や動きで具体的に知らせる。

接続期のカリキュラムの中では

生活する力・学ぶ力・関わる力（5歳児10月～12月）

- ・互いに思いを伝え合い、折り合いをつけながら遊ぶ中で、子ども同士が友達のよいところを認め合い、頑張っている姿に気付けるようにしていく。
- ・具体的な伝え方を知らせたり、自分で伝えたりできるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ・思ったことを言えたり、整理してわかるように表現したりすることができている。（言葉による伝え合い）
- ・みんなのできるようになるという目的が共有されている。（協同性）（豊かな感性と表現）
- ・友達の気付きや考えているイメージを共有して、受け止め合う仲間意識が育ってきている。（協同性）
- ・目的に向かって、挑戦する、乗り越えようとする意欲がある。（自立心）
- ・達成感や満足感を味わう。（健康な心と体）（自立心）

小学校教育との関連

- ・8人でリズムを声に出して、回転するタイミングや動きを揃えるなど、共通な目的に向かって取り組み、一緒に乗り越えることで、人と関わり、互いの思いを聞き、受け入れながら目的に向かって取り組んでいる。これは、生活科の「自分たちの遊びや生活をよりよくする」につながる。
- ・困難なことに挑戦しようとする意欲や友達の姿から自分なりに見通しをもってダンスの動きができるようにという目的に向かう取り組む姿は、小学校体育科における「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ことにつながると考えられる。困難を乗り越えたB児A児共に心の成長にもつながる。

事例②

【タイムセールです！】友達とお店ごっこをする

11月

お祭りごっこに4歳児を招待する日が近づいている。焼きそば屋のメンバーは値段について相談を始めた。そこで担任は、4歳児が500円を持って祭りに来ることを知らせて見守ることにする。E児が「大きいのは500円、小さいのは200円」と声を上げる。F児が「えー！大きいのが200円くらいでいいんじゃない」というとE児は「それじゃあお金が集まらない」という。F児、G児、H児は「うーん」と黙る。担任は改めて「500円しか持って来ないんだよ」と声をかけ見守る。E児は自分の考えに他のメンバーが肯定的ではないと感じた。しかし、E児「それでも500円がいい」と押し通し500円に決まった。いよいよ、お祭りごっこの当日。焼きそば屋は、手作りの鉄板が目を引きことから、興味をもって4歳児がやってくる。大きいパックをとった4歳児が静かに100円玉1枚を渡す。E児は「500円です」と伝える。困っている4歳児を見てE児が「5枚ってことだよ」と言うが困った4歳児は担任を見る。担任が「小さいのは200円だって」とアドバイスをすると、小さいパックを買った。他の4歳児も小さいパックを購入していくのでF児「小さい方しか売れてない」「500円はやっぱり高いんだよ」とG児。F児、H児はG児の意見に共感したようでE児の顔を見ている。E児「わかった、じゃあ大きいのが300円、小さいのが100円！タイムセールです。今なら大きい焼きそば300円です！」E児の掛け声に興味をもった4歳児が何人も焼きそばを買いに来ている。E児は「やっぱり200円にしようかな」と言いながら、嬉しそうに焼きそばを買っていく4歳児たちの対応をしている。

環境の構成

- ・焼きそばの値段を決めるための話し合いの時間を十分とる。
- ・話し合いの日と売る日を別日にして共通理解や再考する時間を設ける。

保育者の援助

- ・相手（客）の様子を伝えることで、遊びへの期待を高めたり、話し合いの目的を明確にしたリする。
- ・友達と考える場や時間を保障し、行き詰った時には、ヒントを出していく。
- ・遊びの中で決まったことを確認したり、考えの違いが出た時には調整したりし、自分たちで決めていくことを進める。

接続期カリキュラムの中では

関わる力・学ぶ力（5歳児10月から12月）

- ・小グループの友達とイメージ（思い）を共有しながら遊ぶ中で、遊びを変化させたり、工夫したりできるよう十分な時間と場の保障をする
- ・遊びの中で文字や数字、記号等に興味をもち読んだり、使ったりできるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ・身近な生活の経験を遊びに取り入れ、表現しようとする。（思考力の芽生え）
- ・お店ごっこのルールや売り買いの仕組みを理解し、遊びが楽しくなるように考えたり工夫したりしている。（社会生活との関わり）（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- ・互いの考えの違いに気づき、受け入れたり言葉のやり取りをしたりして調整しようとしている。（言葉による伝え合い）

小学校教育との関連

価格を決める視点として、誰に売なのか、いくら持っているかなど、決めるための視点を子どもが明確にもっている。そのうえで、事情を汲み取ろうと一人一人が思いを出し合う姿勢はこれまでの経験や人との関わりの中で学んできたものである。500円、300円、100円の金額の大きさを理解し、ごっこ遊びに生かしているのは生活科の「具体的な活動や体験を通して気付きを確かなものにする」につながる。また、社会・家庭での生活経験が主体的な遊びと密着しており、総合的な学習としてつながっていく。

事例③

【すごろくを作って遊ぼう】数量や図形、文字の関心・感覚を用いて遊ぶ 12月～1月

A児が「すごろく作ろう」と友達2人を誘っている。B児「いいよ」C児「何のすごろく作る？」と3人で話し始める。保育者は、誰と一緒に作るのか、子どもと確認しどのようなすごろくを作りたいのか、を決めるまでのやり取りを見守りながら思いを出し合えるように働きかけていく。

「ドラゴンボールすごろくにしよう」「いいね」とテーマが決まった。作成しやすいようにすごろくのマスのおおきさに合わせた用紙（マス・カード 12 cm×10 cm位）を豊富に用意し、一人一人が考えたことをたくさん出せるようにする。マス・カードに自分が考えたことを書いたり、書けない文字を保育者に書いてもらったりして何枚も作っている。「見せて、なんて書いた」「これ、いいね」「どこに貼る？」「ここは？」自分の作ったカードを友達と見合っでどこに何を貼ろうか相談している。マスに貼るマス・カードを決めて貼っていく。全部貼り付けて完成すると「できた」「これで遊ぼう」とすごろくで遊ぶことを喜んでいる。マス・カードが多すぎてコマがなかなか進まないようであるが、マスごとに書いてあることを守って遊んでいる姿を見守る。

遊び始めると「自分のコマを作る」と作ったり、マス・カードが多すぎて遊びが進まないため遊び方のルールを変える相談をしたりしている。保育者は子どもの遊びを見守りながら、必要な材料を提示してコマが完成するように援助する。

環境の構成

- ・すごろくを作る場や時間、教材を十分に用意する。
- ・人数やメンバーを把握し友達と一緒に取り組める場（他の遊びとの間隔）の構成をする。

保育者の援助

- ・子どもの必要感に応じて、文字の記載の仕方や書き方など活動に親しめるように援助する。
- ・子どもの主体的な取り組みを見守りながら、必要な材料や教材を十分に準備する。
- ・子どもの意欲が育ち、友達と協同しながら、数や文字を用いて遊ぶ力が育つように関わる。

接続期カリキュラムの中では

関わる力・学ぶ力（5歳児1月～3月）

- ・友達の意見を受け入れたり尊重したりしながら遊びを進められるように、それぞれの思いや考えを受け止め、調整したり子どもがよりよい方法や考えを生み出せるように方向付けをしたりしていく。
- ・今までの経験から、数や文字を使うとより遊びが楽しくなることを知り、進んで生活や遊びに取り入れられるような環境を工夫する

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ・数量や図形、文字等の関心や感覚が育ち、相手の気持ちや状況を理解してやりとりを楽しむ。
(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- ・数量や図形、文字等を使って、自分の気持ちや考えを表現しようとする。
(豊かな感性と表現)
- ・活動の目的を意識しながら、ルールや順番を守って、自分たちで遊びを進める喜びや達成感を味わう。
(協同性)

小学校教育との関連

・仲間と相談しながらすごろく遊びを作っていく中で、仲間の思いや考えを感じて理解し共有している。この、協同の喜びは自分も一緒にやっているという安心感につながり、小学校の特別活動の「集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成」につながる。

事例 ④

【氷を作りたい】自然・現象に興味をもち、気付きを伝え合う 2月

- ・「(小学校の)ライオン池の氷が凍っていたよ」と登園してきたA児が、保育室にいる友達や担任に大きな声で伝える。保育者は、冬の自然への関心を高めるチャンスだと考え「本当に凍っているか、見に行こう」と、クラス全員でライオン池まで見に行く。
- ・「すごい！ライオン池が凍っているよ」と驚きながら「本当に凍っているかな」「ツルツルしている！」「割れないね」「スケートができるんじゃない？」と、一人一人が感じたことを言いながら、何度も触っている。その中で「幼稚園でも氷が作ってみたい！」と言う子どもがいた。氷作りを試す機会になると保育者が考え、その言葉を取り上げ、どうしたら氷が作れるか、クラスで話し合う時間を設けた。その後、実際に子どもたちが試す時間を作る。氷作りに必要な用具を子どもと一緒に準備する。子どもたちは「バケツに水を入れて、園庭に置いてみよう」「寒い場所に置くといいんじゃない？」「※雪を入れてみようか」「ここが日陰になっていて寒いから、ここに置こう」と考えを伝え合いながら、園庭の日陰の場所、4ヶ所に水や雪を入れたバケツを置く。※数日前に雪が降り、雪が残っている状態。
- ・翌日、子どもたちは登園後、すぐにバケツを見に行く。「氷ができてる！」「こっちもできてるよ！」と嬉しそうに伝え合う大きな声が聞こえる。
- ・「こっちのバケツは氷になっていなかった」と残念そうな表情の子どももいる。「置いたときは日陰だったけど、今はお日様が当たっているから、氷にならなかったのかな」と子どもなりに考えている。
- ・できた氷を皿の上に置き、花でデコレーションして、ケーキを作る子どもがいる。

環境の構成

- ・隣接する小学校に池がある。
- ・ある環境に思いのままに働きかけられる自由性がある。
- ・生活の中にバケツ等活かせる道具が揃っている。
- ・数日前に降った雪が残っている状況である。
- ・園庭に日向と日陰がある。

保育者の援助

- ・子どもの気付きを逃さず、触ったり遊んだりする時間を十分保障する。
- ・「氷作りをしたい」という声を捉え、作るための環境を子どもと一緒に整えていく。
- ・考えたり予想したりするための話し合いの時間を保障し、遊びが発展するように話し合いの内容を共有できるようにする。
- ・試す姿を見守り、気付きや喜びに共感すると共に子どもがよりよい方法や考えを伝え合うように助言する。

接続カリキュラムの中では

学ぶ力(5歳児1月～3月)

- ・自然現象に興味をもち、触れたり試したりできるような環境を整える。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ・身近な環境に関わり変化や発見を楽しんだり考えたりする。 (自然との関わりや生命の尊重)
- ・気付いたことや考えたことを言葉で表現し、友達と試したり工夫したりする。 (言葉による伝え合い)
- ・既習の経験を活かし手段を考え、見通しをもった実践ができている。 (自立心)

小学校教育との関連

・氷に気付いたこと、氷作りを試したこと、氷ができたことを確認する遊びは、氷の性質や仕組みについての気付きになっている。具体的な活動や体験を通しての気付きや学びを活かして考えることは、生活科にあるような身近な生活に関わる見方・考え方を育み、自分の生活を楽しく豊かにする資質・能力の育成につながる。

事例 ⑤

【もっと、長いのがいいよ！】今までの経験から考えて行動する 2月

遊戯室で5名の幼児がコマ回しをしていた。一人のコマが積み木棚の下の奥にコマが入ってしまい、困っている。A児「どうしたの？」B児「取れないの。どうしたら、とれるかな？」C児「手を伸ばしてみたら」B児「この紐を投げたら届くかな」やってみたが、届かない。D児「紙で丸めた剣を作ろうか。それなら届くかも」そこへ、担任がくる。困っている様子がわかり、子どもたちのから話を聞く。すぐに答えを出さず、考えさせて解決に向かわせようと考えた。担任「届かないということは、すごーく奥に入ったんだね。どうしたらいいかな？」と問いかける。E児「奥だったら、もっと、長いのがいいよ！」A児「幼稚園に長いのがってある？」C児「あっ！先生がお掃除するホウキは？」D児「いいね！」B児「先生、使ってもいい？」担任「いいよ。気をつけて使ってね。取れるといいね」子どもたちが、掃除用具置き場に急いで取りに行き、「もっとこっち」「あっ、当たったよ」等と位置を友達同士で確認しながら、コマを取ることができた。担任「みんなで色々考えたから、Bちゃんのコマが取れたんだね。みんなの力がすごいね！」B児「みんな、ありがとう！」

環境の構成

- ・コマ回しを友達同士で取り組める場や時間、そして、困った時に考え合う時間を保障する。
- ・使ってみたい、試したいと思った時にすぐに使える環境を整える。

保育者の援助

- ・幼児が困っている様子を丁寧に聴き取り、すぐに答えを出さず、考えられるように問いかけたり、時間を保障したり、試すことができるように見守ったりする。
- ・ヒントになる問いかけを意図的にする。
- ・みんなで考えることで、よりよい方法が見つけられることを体験から、子どもに分かりやすく伝えている。

接続期カリキュラムの中では

- 生活する力（5歳児1月～3月）
- ・遊びや生活の中で困った時は、今までの経験から、自分なりに考えて行動できるよう言葉をかけたり、考えられる環境を保障したりしていく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ・自分の考えを伝えたり、友達の話を聞いたりすることができている。 (言葉による伝え合い)
- ・今までの経験から、考えたり試したりしている。 (思考力の芽生え)
- ・目的に向かって、考えを出し合い、解決しようとあきらめない気持ちが育っている。 (協同性)
- ・困っている友達の気持ちを考え、何とかしてあげたいと関わっている。 (社会生活との関わり)

小学校教育との関連

- ・園生活や遊びの中で困った出来事に対して、すぐに担任等、周りの大人に聞くのではなく、自分で考えようとする意識や力をつけること、周りの状況を見ながら考え行動に移せることは、小学校生活を送る上でも生活する力として重要である。また、よりよい方法に気付いたり、友達と考え合ったりして解決する姿は、生活科等教科の学習に主体的に取り組み、問題解決に向かおうとする態度につながる。

9 習志野市幼保小関連研修の取り組み

目的 幼児教育から小学校教育への円滑な接続を目指し、互いに教育内容や指導方法について相互理解を図り、それぞれの指導に活かす。

「滑らかな接続のために」等の講話を聞き、接続の必要性を学ぶ

幼児や児童の発達や互いの教育内容、指導について、また、幼児期の経験や学びが児童期の学びにどのようにつながっているのか等、講師研修をとおして、接続の大切さや連携のあり方について学ぶ。



学校区毎のカリキュラムを基に幼児・児童の発達や手立てについて学ぶ

各学校区に分かれ、地域を含めた幼児・児童の実態を照らし合わせながら、カリキュラムを基に計画、実践、反省、見直しをし、よりよい連携が行えるように取り組む。



一年間の取り組みを発表し、共有し学ぶ

他の学区の取り組みや学びを聞き、幼児・児童の育ちについて共有し、次年度の交流や連携に活かせるようにする等、一年間の学びを振り返る。

